

本 時 案 （第〇次第〇時）		
目 標	<p style="text-align: right;">〔観点〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 単元（題材）の目標の「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」のうち、本時の学習活動で目標としているものを具体的に書く。文末には関係する評価の観点を付記するとよい。 ・ ねらいを明確にした授業づくりのために、一つまたは二つの目標に絞り込む（目標が二つ以上ある時には箇条書きにする）。 <p>※文末表現例「～しようとする」「～工夫している」「～できる」「～理解する」など</p> <p style="text-align: right;">〔生徒の立場で書く〕</p>	
学習活動	指導・支援上の配慮事項など	評価規準・方法など
〔生徒の立場で書く〕	〔指導者の立場で書く〕	〔生徒の立場で書く〕
1	○	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 学習活動のねらい（生徒に提示する本時の目標）を、実線で囲んで書く。 </div>		
2	○	
(1)	○	
(2)	・	
3	○	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 学習過程に沿って、生徒の活動を具体的に書く。 </div> <p>※文末表現例 ～に気付く ～を知る ～について考える ～について話し合う ～を発表する ～を確かめる ～をまとめる など</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 指導過程に沿って、教師の指導・支援上の配慮事項などを書く。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 指導の意図、重点方法、工夫など ・ 指導と評価の一体化を図る手だて ・ 生徒一人一人の学習への手だて ・ 予想される生徒の反応 ※板書計画や準備物などは別に欄を設けることもある。 </div> <p>○</p> <p>※「努力を要する」状況（C）と判断した生徒への具体的な手だても記す。</p> <p>※文末表現例 ～助言する、～ようにする、～確認する、 ～配慮する、～言葉がけをする、 ～やすくする、～示す、～知らせる など</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 本時の目標と対応させる。 評価場面は1，2か所 </div> <p>◇評価規準 〔観点〕（評価方法）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ※評価規準を具体的に記す。 ※本時の目標との整合を図る。 ※評価の観点や方法を記す。 </div> <p>※評価方法例 行動観察 発表・発言 ワークシート 自己評価カード 作品 など</p>

※学習指導案作成上の留意事項

- 書式は固定的なものではない。生徒に提示する活動のねらいやそれを達成するための手だてを具体的に表現するのに適した書式を選択する。
- どのような書式を選択しても、次の点は学習指導案から読み取れるようにする。
 - ・ 生徒がどのような目標をもって活動すればよいのか、また、生徒がその目標を達成できるように、指導者がどのような手だてを講じているか。
 - ・ 指導の中で評価がどのように位置付けられ、どのように活用されているか。
- 評価規準の設定に当たっては、『評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料（高等学校 共通教科「家庭」）』（平成24年7月国立教育政策研究所）または『評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料（高等学校 専門教科「家庭」）』（平成25年3月国立教育政策研究所）を参考にして、生徒の発達の段階を踏まえ、単元（題材）の指導のねらいを明確にするとともに、当該単元（題材）に取り上げる指導事項に応じて、適切に設定することが望ましい。なお、「十分満足できる」状況（A）と判断する際のキーワードとその具体的な姿の例や、ABCの評価の尺度を示すこともある。